

## 内灘町の避難所・仮設住宅に弁当お届け ～ゼミ生の調理活動～

団体名●バイヤー専門ゼミナール／代表者名●バイヤーアヒム（人文学部国際文化学科・教授）

### はじめに(背景・目的・目標)

金沢市に隣接する内灘町では能登半島地震で震度5弱の揺れを観測し、液状化による道路の隆起やひび割れ、それに水道管が破断して一部の地域で断水が続くなど甚大な被害があった。

災害の危険性があり避難した避難者は指定一般避難所に避難された。金沢星稜大学の支援活動として、先ずは、内灘町社会福祉協議会と国際文化学科バイヤー専門ゼミナールは計画たて、献立選定、調理指導に地域で伝統食の普及活動を実施してるNPOエコラボと協働した。第一回は2024年1月27日に内灘町の避難所住居人32名頃、第二回は2024年6月3日に内灘町の仮設住宅40人頃宛てに夕食の弁当をは配布しました。

### 活動内容

地域防災センターに避難されている高齢者のニーズは以下であった。米食中心で柔らかく温かい、栄養バランスがとれているた、塩分量が少ない、食物繊維が豊富であることなどであった。

調理の手順が少なく短時間で大量に調理でき、高齢者にも好まれる献立として、五目御飯、金時豆の甘煮、即席漬けとした。避難所での食事は使い捨てのプラスチック容器に入れて提供されており、大量の廃棄物が発生するが、非常時でも廃棄物の削減は必要であると判断し、繰り返し長期使用できる軽量のプラスチック容器を食人数分準備し、そこに食事を盛り付けて提供することとした。



### 成果、結果の考察

2024年1月27日 本校調理実習室で調理し防災センターへお届け。

2024年6月3日 小坂公民館で調理し防災センターへお届け

「ずっとここにいる、食べることしか楽しみない。ほんとにありがとう」ということばを頂いた。

避難所生活が長期化するなか、栄養の偏りなど様々な栄養・食生活上の問題が浮上。高齢者など要配慮者は配食された食事が食べづらなど、災害時の栄養上、健康上の課題解決の一助となった。

